資料３

令和５年度島根県立少年自然の家主催事業

# 「利用団体指導者研修会」実施報告書

島根県立少年自然の家

## １　趣旨

・　集団宿泊研修の教育的意義、及び内容・方法について理解する。
・　当所での研修活動を効果的に展開するためのプログラム案を作成する。
・　同時入所団体とプログラムの調整を図ることを通して、プログラムの再検討や、宿泊研修への見通しをもつきっかけにする。

## ２　事業の概要

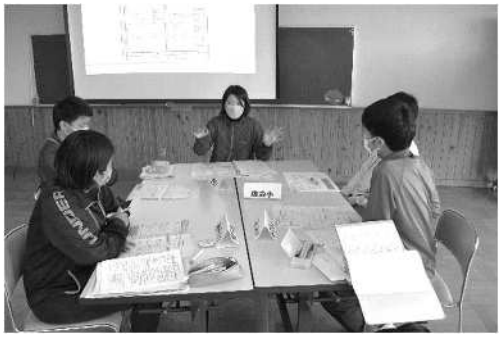
〈第１回：前期（４／１～９／１６）入所予定の学校担当者対象〉
　期　日　４月２６日（水）　参加者　３２校の各担当者
〈第２回：後期（９／１７～３／３１）入所予定の学校担当者対象〉
　期　日　７月２８日（金）　参加者　２６校の各担当者

〈内容〉　（１）所長講話「今こそ体験活動を！」
（２）活動プログラム紹介
（３）施設見学
（４）昼食に合わせ、説明「食堂の使い方について」
（５）実習「活動プログラム体験」
（６）説明「研修計画の作成の留意点と入所手続きについて」
（７）団体間調整

## ３　事業の特色

宿泊研修を予定している学校団体の研修担当者を対象にした事業である。前期・後期に分けて施設のプログラム紹介、見学、実習などを体験することで、より効果的な研修計画を立ててもらうことを意図した事業である。見通しをもって児童への事前指導や教員間の話し合いができると考える。

## ４　成果



昨年度、前期はオンライン開催、後期は中止した当事業であったが、２年ぶりに現地（当施設）で開催することができた。参加者からは、「子ども達によりよい体験させたいという気持ちをもつことができた。」「実際に見学や体験ができ、イメージをもつことができよかった。」「配慮する点や検討が必要な点を確認できた。」「団体間調整では、よりよい案を提案していただきありがたかった。」という感想があり、前期は満足度９６．６％、後期は満足度９７．５％という高い評価をいただくことができた。年々、当施設の利用が初めての担当者が増えてきているため、この事業ではより丁寧に施設やプログラムの内容の説明をしたり、体験活動のよさを味わっていただける工夫をしたりしていく必要がある。また、前期は新年度初めの開催であり、参加者にとっては、事前提出書類等にも負担がかかると思われた。後期開催の際に試みたYouTube動画提供等も今後積極的に取り組んでいき、参加者の負担軽減につなげたい。

令和５年度島根県立少年自然の家主催事業

# 「家族ではじめよう！キャンプ講座」実施報告書

島根県立少年自然の家

## １　趣旨

・　テント設営、野外炊飯等の活動を通して、基礎的なキャンプの技術を養う。

・　自然の中での活動を通して、自然の良さを体感したり家族の絆を深めたりする。

## ２　事業の概要

（１）　開催日　１回目　令和５年５月２０日（土）

　　２回目　　５月２１日（日）

　　対　象　小中学生とその家族（年中以上）

（２）　参加者　各回１２家族　（合計７５名）

（３）　内容

①　アイスブレイク

②　テント組み立て

③　野外炊飯「ライスクッカー炊飯」「たき火でホイル焼き」「マシュマロ焼き」

④　自由遊び「浅利富士登山」「グリーンオリエンテーション」「遊具貸出」

## ３　事業の特色

この主催事業は、キャンプに興味があるが今までなかなかできなかったという家族を想定し、日帰りキャンプ体験を気軽に楽しんでいただけるように工夫した事業である。あえてキャンプ道具を家族で設営場所へ運んだり、水道から遠い場所を設営場所にしたりすることで、キャンプ場を想定した会場設定にした。また、職員からは、安全について等の必要最低限の説明や必要な支援のみにし、テントの立て方や炊飯の方法については、説明カードを家族で読み合って、作り上げていくような仕掛けにして、基礎的なキャンプの技術を養えるようにした。また、「たき火でホイル焼き」については、参加予定者に基本的な作り方シートを事前に郵送し、自分たちで具を考えて材料準備をしてもらうこととした。これによって、計画段階から楽しんでもらう工夫をした。テント組み立て体験と炊飯活動が終わった後には、自由遊びの時間として、家族の時間を楽しめるようにした。

## ４　成果

事後アンケートの「日々の雑事に追われていたが自然の中でとてもリラックスできた」「主体的に活動させるようになっていたので子ども中心に活動させることができた」「子どもたちが自分でもできるという気持ちが生まれた」という記述から、家族での時間を楽しみながら、キャンプの技術を養うことができたと思われる。全体の満足度は９４％だったため、おおむね満足していただけたのではないかと考えている。また、ファミリー間での交流ができたらよかったという意見もあった。他の家族との交流は、主たるねらいではないが、今後、他の家族同士で自然と交流できるような仕掛けをしていきたいと感じた。６人の方が「次はテントで泊まりたい」とアンケートに書いておられ、この事業で得たことを今後に活かしたいという意欲をもたれたことがうかがえた。

令和５年度島根県立少年自然の家主催事業

# 「ミニ・キャンプ」実施報告書

島根県立少年自然の家

## １　趣旨

・　お手軽キャンプ体験やプログラムを通して，自然と親しんだり，家族の絆を深めたりする。
・　全員が楽しみながら参加できる活動を通して，参加者同士がゆるく関わる機会を作る。

## ２　事業の概要

（１）　開催日　７月８日（土）～９日（日）
　　対　象　小学生とその家族（年長以上）
（２）　参加者　１２家族（３５名）
（３）　内容
　①　ミニゲーム（アイスブレイク）
　②　火おこし
　③　炊飯活動「バーベキュー」「ホットサンド」
　④　自由時間
　⑤　スコアオリエンテーリング
　⑥　寝袋宿泊・(テント or ケビン棟宿泊)

## ３　事業の特色

本事業は、元々ケビン棟の利用促進を兼ねて、お手軽キャンプ体験を通した親子のつながりづくりの一助となることをねらいとして始められた。昨年度から、キャンプブームでの需要を受け、ケビン棟泊だけでなく、テント泊の希望者も受け入れた。

５月に新型コロナウイルス感染症が５類に移行されたので、昨年度までの主催事業ではできなかった家族間交流ができるように計画を立てた。ミニゲーム(アイスブレイク)、火おこし、バーベキュー、スコアオリエンテーリングで、２家族以上の班で活動することで交流をはかった。

また、自然と親しむことができるよう、スコアオリエンテーリングや自由時間を設けた。

## ４　成果

当日は、豪雨と強風の荒天だった。１日目のはじめに少し晴れた時間があったため、急遽計画を入れ替えて、野外でのスコアオリエンテーリングを行い、その後は室内中心の活動へと切り替えた。また、荒天のため、ケビン棟泊は難しいと判断し、宿泊棟泊に変更した。ただし、テントで泊まりたいという家族もいらっしゃったので、その希望を尊重し、屋根のある安全な場所でテント泊をしていただいた。

事後アンケートでは、「２日間で子どもたちや保護者の方とたくさん交流できた。ここまで仲良く過ごせると思わなかった。」「雨の中でも予定を変更してくださりありがとうございました。」「家族のよい思い出になった。」と書かれ、満足度は９０％だった。一方で、「バーベキューは、気を遣うので家族ごとがよかった。」という意見もあった。このことから、募集の段階から主催事業の趣旨や家族間交流があることを、より明確に示す必要があると感じた。

また、６月から募集を開始した自然の家ボランティアクラブ「イモームズ」として、初めて中学１年生２名の参加があった。イモームズ２人がスタッフの一員として支える姿がよい手本となり、参加者の小学生たちが自発的に準備・片付けをする姿が多くみられた。

令和５年度島根県立少年自然の家主催事業

# 「ジュニア・サマー・キャンプ」実施報告書

島根県立少年自然の家

## １　趣旨

日常では味わえない体験活動プログラムを通して、自然のよさや厳しさを体感したり、仲間と協力し励まし合いながら困難を乗り越えたりすることで、たくましく生きる力を育む

## ２　事業の概要

（１）　期　日　令和５年７月３０日（日）～８月４日（金）　５泊６日

（２）　対　象　小学校５・６年生　　２４名

（３）　内　容　１日目（出会い）　入所のつどい　仲間づくり　安全学習　夕食作戦会議

２日目（森活動）　ベースキャンプづくり　ソロ炊飯入門　班で夕飯づくり

３日目（山活動）　ソロ炊飯で朝食づくり　浅利富士クエスト　山仕事に挑戦　班で夕食づくり

４日目（川活動）　ソロ炊飯で朝食づくり　川で生き物探し　カヌー体験　班で夕食づくり

５日目（海活動）　ソロ炊飯で朝食づくり　海釣り　海遊び　ベースキャンプ解体　バーベキュー炊飯　キャンプファイヤー

６日目（最終日）　ふりかえり　ストーンアートで発表会

## ３　事業の特色

「仲間と挑戦！きっと何かが見つかる　見つける　自然の中で過ごす６日間」をキャッチフレーズに、夏休みに行う長期キャンプである。この事業における「たくましく生きる力」を「①自ら考え主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する。②他人と協力し合う。思いやる心。感動する心。③自らの体と心に向き合い健康で過ごす。体力をつける。」ととらえ、この事業を通して子供達につけたい力としてスタッフで共有し、事業に臨んだ。今年度は、２泊目～４泊目は「どんぐりの谷」にテントを張り、炊飯場を作り朝はソロ炊飯、昼は防災食、夜は班で考えたメニューを調理した。

## ４　成果

「挑戦・協力・愛」を合言葉に、６日間を過ごした。「友達がたくさんできた。」「いろんなことに自信が持てるようになった。」「普段のありがたさや自然の大変さなどがわかったので、いつものことに感謝して生活したい。」「今までは、話しかけてもらって友達になったけど、自分から話しかけた方が仲良くなれるような気がする。」といった感想からは、今後の日常生活に生かそうとする姿が伺える。最終日の夜のキャンプファイヤーで思い切り自分を出しながら楽しんでいた子どもたちの姿が印象的であった。

令和５年度島根県立少年自然の家主催事業

# 「チャレンジ・ザ・サマー」実施報告書

島根県立少年自然の家

## １　趣旨

・　少年自然の家が提供できる活動を通して親子の絆を深め、夏の思い出づくりに寄与する
・　自然体験活動を通じて，自然やものづくりへの興味関心を高める

## ２　事業の概要

（１）期　日　８月１９日（土）～２０日（日）　１泊２日
（２）会　場　島根県立少年自然の家
（３）対　象　小学校とその保護者
（４）参加者　１９家族　５３名（小学生２８名、保護者２５名）
（５）日　程　〈 プログラム構成 〉

| １日目　8 月 19 日（土） | ２日目　8 月 20 日（日） |
|---|---|
| 9:30 ～　受 付<br>10:00　入所のつどい<br>10:30　**家族で火おこし**<br> <br>13:00　**冒険の森〈２家族１班, 10 班編成〉**<br>**記念のペンダント作り**<br>18:00　夕食（食堂）<br>19:00　**浅利富士ナイトハイク**<br>21:30　～　入浴・就寝 | 6:00　起床<br>6:15　**朝の自由散策**<br>7:00　**家族でホットサンド**（朝食）<br>9:00　**スコア オリエンテーション**<br>10:30　**家族カレー炊飯**<br>（昼食）<br>13:30　退所のつどい<br>：終了 14:00 |

## ３　事業の特色

「2023 夏の思い出をつくろう！この夏、自然を満喫しながら親子の絆を深めよう！」を、テーマとした。家族で火おこし、そしてその火をもって始まる２日目の家族カレー炊飯へとつないでいくプログラムの流れとした。また複数家族でグループを編成し、冒険の森、ナイトハイクやオリエンテーリングなど家族間交流をねらった活動を組み込んだ。併せて、記念のペンダントづくりに親子で取り組み、この夏の思い出の形づくりとした。

## ４　成果

参加者アンケートから、テーマの達成度は、①今年の夏のご家族の思い出となりましたか 99%
②家族で力を合わせて、体験活動や炊飯活動に挑戦しよう 96%
③自然とふれあうことのよさを確かめよう 93%。経年比較からも満足度の高さを感じた。また参加者の感想からは、「子どものがんばる姿に、こんなにもできるんだと感じる場面がたくさんありました。」「おかあさんとそんなにきょうりょくしてなかったから、きょうりょくしてたのしかった。」・・・

子どもの成長を感じ取り、日ごろを振り返りながら、家族が互いの思いを寄せ合う２日間となったように思う。

令和５年度島根県立少年自然の家主催事業

# 「子ども探検隊」実施報告書

島根県立少年自然の家

## １　趣旨

・　江津の教育資源を活用した探検活動を通し、自分や友達のよさを見つける。
・　自然の中で感覚をとぎすまして遊ぶことで、自然と親しむ。
・　集団生活やグループ活動をすることで、規律・礼儀作法などの基本的生活習慣を学んだり、協力するよさを味わったりする。

## ２　事業の概要

（１）　開催日　１０月１４日（土）～１５日（日）
　　対　象　小学３・４年生
（２）　参加者　２４名
（３）　内容
　①　アイスブレイク・自然遊び
　②　自然の家探検Ⅰ（課題チャレンジ含む）
　③　キャンドルのつどい
　④　自然の家探検Ⅱ（ソロコース含む）

## ３　事業の特色

「自分の宝物を見つけよう！」という合言葉のもと、２日間を過ごした。１・２年生対象の「かわいい子には旅をさせよう！」は親元を離れて宿泊すること自体や個々のチャレンジに価値を見出しているのに対し、３・４年生対象のこの主催事業は、協力するよさを味わったり、勇気が必要な探検を通し自分や友達のよさを味わったりすることを趣旨に加えている。

１日目の「自然の家探検Ⅰ」では、４人班で協力しながら、自然の家の敷地を巡り、７体の妖怪（大学生ボランティア）から出される課題にチャレンジし、次の日の探検につながるヒントを得る。２日目の「自然の家探検Ⅱ」では、宝物を探すため再び４人班で探検をする。その中に一人だけで山道を歩くソロコースを設けた。スタートとゴールに人が見えない、少しスリルある山道にソロコースを設定することで、勇気を出してチャレンジすることをねらった。探検の最後は、全員でゴールし達成感を味わえるようにした。最後の振り返りには、探検の時に見つけた自分や友達のよさを伝え合い、自分の宝物を見つけられるような活動をした。

## ４　成果

当日を迎える２日前に、自然の家から３km 以内で熊の目撃情報があった。浅利富士頂上を目指した探検を計画・準備をしていたが、浅利富士近辺での活動はリスクが高いと判断し、やむなく計画を変更することになった。ねらいはそのままに、自然の家の敷地内で安全に活動できる探検ルートを新たに考えた。職員の連携により、場所の変更があったものの安全に子どもたちに体験してもらうことができた。アンケート結果では、子どもたち全員が「楽しかった」、「自分や友達のよさを見つけることができた」と回答した。２日目の振り返りの時間には、全員が紙に自分の宝物（見つけた自分のよさ）を書き込み、一人ひとり配布した宝箱に入れることができた。見つけた宝物がその後の毎日の心の支えになることを期待している。

令和５年度島根県立少年自然の家主催事業

# 「オープンデー」実施報告書

島根県立少年自然の家

## １　趣旨

・　広く県民に施設開放をし，県民に周知するとともに、利用促進を図る。

・　利用団体や所と関連のある団体との結びつきをさらに深化させる。

## ２　事業の概要

（１）　開催日　１０月２９日（日）１０：００～１６：００

　　対　象　どなたでも（高校生以下は、保護者同伴）

（２）　来場者　２５１名（７２組）

（３）　内容

①　少年自然の家が提供した体験等

・冒険の森アスレチック体験

・車いすバスケット体験

・創作活動（目玉っちキーホルダー）

・土鍋ご飯体験

・食堂委託業者（ウオクニ株式会社）による、カレーライス等の販売

②　関連団体によるブース出展

・しまね自然子育てネットワーク～どんぐりの谷でプレイパーク、マシュマロ焼き等の提供

・いわみ福祉会～食品、コーヒーの販売

・島根県キャンプ協会～テントなどキャンプ用品の紹介と薪割り体験等の提供

・西部社会教育研修センター～親学の一環として「ほめぱっちん」体験の提供

・いわみ芸術劇場グラントワ～どんぐりの森での演奏会開催　11：00 と 13：30 の２回

## ３　事業の特色

主催事業の中では、広く県民に周知し、施設を開放する目的を持った事業の一つであり、来場人数も一番多い。周知の方法としては、９月にチラシ配布を行い、LINE 公式アカウント登録者には、４回メッセージを送信した。県庁を通して、報道機関にも情報提供を行った。コロナ禍により、中止が続き、４年ぶりの開催となった。前回までは、当所の体験活度の提供を主に行っていたが、今年度は当所を利用されたことのある団体に働きかけて、ブースの出展を募った。その結果、五つの団体に出展していただくことができた。プレイパーク、キャンプ体験、演奏会、親学、食品販売とバラエティーに富んだ内容となった。また、食堂の委託業者であるウオクニ株式会社にも５００円カレーライスの販売などで協力を得た。当所からは、メインの活動である冒険の森アスレチックをはじめとして、創作活動や炊飯活動を提供した。特に、今年度から導入した「車いすバスケット」の体験は、実際に普段から楽しんでおられる方を招いて一緒に体験してもらうことができた。

## ４　成果

天候にも恵まれ、久々に２００名以上の来場があった。「体を動かしたり、音楽に触れたり、薪割したり、普段できない体験ができました。」というアンケートの記述通り、家族で様々な体験をされた方が多かったと思われる。関連団体ともブース出展を通して、お互いの思いを伝えあうことができ、より繋がりを強化することができた。

令和５年度島根県立少年自然の家主催事業

# 「森と海のつどい」実施報告書

島根県立少年自然の家

## １　趣旨

・　「森の豊かさは海の豊かさ」をテーマに、森と海のつながりを親子体験活動を通し、感じ取り学ぶ。
・　１泊２日の活動を通して家族のつながりを深める。

## ２　事業の概要

（1）期　日　１１月５日（土）～６日（日）　１泊２日
（2）会　場　島根県立少年自然の家、しまね海洋館アクアス、石見畳ヶ浦
（3）共　催　しまね海洋館「アクアス」
　　協　力　島根県立三瓶自然館「サヒメル」
（4）対　象　小学校　４．５．６年生とその保護者
（5）参加者　１１家族　２４名（小学生１２名、保護者１２名 ）
（6）日　程：〈 プログラム構成 〉

| １日目　11月４日（土） | ２日目　11月５日（日） |
|---|---|
| 9:30 ～　受 付<br>10:00　**入所オリエンテーション**<br>アイスブレーキング etc.<br>12:00　昼食（食堂）<br>13:00　**さぁ、森へ出かけましょう**<br>三瓶自然館「サヒメル」研究員さんと<br>一緒に　～　体験活動や森のお話　～<br> <br>19:00　**夜の森へ出かけましょう**<br>自然の家スタッフと　一緒に<br>21:00 ～　入浴・就寝 | 6:00　起床<br>6:30　**朝の森を歩きましょう**<br>～　秋の深まる林をくぐって　～<br>7:00　**森の朝食（どんぐりの森の中で）**<br>～　ホットサンドをご家族ごとに　～<br>―　アクアスへ<br>10:00　**アクアス 探索、バックヤードへ**<br>～　人と海とのつながり　～<br>昼食（弁当）　―　畳ケ浦へ<br>12:30　**磯や潮だまりに暮らす**<br>**生きものたちに会いに行きましょう**<br>アクアス 飼育スタッフの皆さんと一緒に<br>14:30　**森と海の２日間をふりかえって**<br>現地（畳ケ浦）にて解散：終了 15:00 |

## ３　事業の特色

「森の豊かさが海を育てていること」を、感じ取る活動の流れを、サヒメル、アクアススタッフと共同開発したプログラムである。家族同士の出会いの場から森へ出かけ、森の多様性から見えてくる豊かさを感じ取り、施設周辺にみられる鉄分が海へと注がれていく、そのストーリーを、自作シールをもってアクアスの水槽へとつないだ。そして、海へ出かけ潮だまりに暮らす生きものから、その豊かさに気づき、学んでいくプログラム構成とした。併せ、家族同士の交流活動を通し、家族のつながりを深めていくことをねらうプログラムとした。

## ４　成果

「島根がとても自然豊かで良いところと言われ、そんな島根で生活していることが、うれしく思った。」「3回目の参加でしたが、一番、森と海のつながりを感じた気がします。」「カニをつかまえて良かった。山、川海はつながっていることを知った。」「親子で協力しながらチャレンジできて良い思い出ができました。」・・・。（参加者の感想から）

親子による体験活動を通し、森と海の豊かさのつながりを互い語り合い、家族のつながりも深まっていく２日間のプログラムの流れであったように思う。

令和５年度島根県立少年自然の家主催事業

# 「エンジョイ・アウトドア」実施報告書

島根県立少年自然の家

## １　趣旨

自然の中で思い切り体を動かしたり、体験活動プログラムを活用したりすることを通して、子どもたちの積極的態度の醸成や、自己肯定感の向上を図る

## ２　事業の概要

（１）　開催日　１１月１０日（金）９：５０～活動終了後各団体退所

対　象　浜田教育事務所管内教育委員会教育支援センター等
児童・生徒及び引率者
（支援センターに通っていない児童・生徒も参加可）

参加者　児童・生徒　１８名　引率者　１８名　計３６名

内訳
- 大田市教育委員会「あすなろ教室」児童２名　生徒２名　引率者５名　計９名
- 江津市教育委員会「あおぞら学園」児童３名　生徒５名　引率者６名　計１４名
- 浜田市教育委員会「やまびこ学級」児童３名　生徒３名　引率者７名　計１３名

内　容　①野外炊飯活動（バーベキュー、かまどでご飯炊き）
②選択活動
晴天の場合：冒険の森　スコア 0L　グリーン 0L
雨天の場合：室内 0L　体育館活動　カプラ
※当日、希望の活動ができるよう柔軟に対応

## ３　事業の特色

県教委による「青少年社会教育施設での野外体験（キャンプ・バーベキュー等）活動機会の充実」の取組を受け、本施設の主催事業としての実施３年目である。この事業では、昨年度までと同様に、対象を教育支援センターに通う子どもたちとしたが、今年度は、江津市、浜田市の校長会で広報をし、教育支援センターに通っていない子どもたちにも声をかけ、参加の相談に応じるようにした。（結果として参加はなかった。）昨年度の課題として「年１回の場ではなく、各団体の希望により、複数回このような活動ができるようなシステムの構築をめざす。」があり、今年度は受け入れ事業としても対応できるようにした。受け入れ事業では、対象を「放課後等デイサービス、児童養護施設、児童相談所」に通う子どもたちとし、より多くの子どもたちに野外体験活動の機会を設けるよう努めた。

## ４　成果

昨年度までに出た課題をいかし、今年度は、参加団体に事前に「子どもたちが主体的に活動できるように役割分担をすること」「引率者の方は子どもたちが安全に、安心して活動できるよう見守ること」をお願いした。活動後の子どもたちのアンケートには、「火をたいたりおしゃべりしながら野菜を切ったりして、最後に作ったのを食べてとても楽しくてよかった。」といった活動自体を喜ぶ意見や、「人との関わりがもてたことがうれしかったので楽しかった。」という人と関わることの喜びが感じられる感想が見られた。また、引率者からも「ＢＢＱでは、スタッフがあまり手をかけず子どもが活躍できてよかった。」「自分の仕事を最後まで責任をもってやりとげようと頑張っている姿を見てとても嬉しいきもちになった。」「いつもと違う場所、人とかかわることのできる良い機会と感じている。近くにこのような体験ができる場があるので今後も利用していきたい。」といった感想があり、子どもたちの主体的な体験活動を見守ることを通して、その良さを改めて感じる機会となったことが伺えた。

令和５年度島根県立少年自然の家主催事業

# 「かわいい子には旅をさせよう！」実施報告書

島根県立少年自然の家

## １　趣旨

・　自然の中で思いきり活動することで自然に親しむ心を育む。

・　保護者のもとを離れた宿泊体験活動をすることで、自主・自立の精神を養ったり、基本的な生活習慣を育んだりする。

## ２　事業の概要

（１）　開催日　１回目１１月１８日（土）～１９日（日）

　　２回目１２月　２日（土）～　３日（日）

　　対　象　小学１・２年生

（２）　参加者　各回２０名（合計４０名）

（３）　内容

①　アイスブレイク・自然遊び

②　できるよ！チャレンジの旅

③　煮込みうどん炊飯

④　寝る前のストーリーテリング（協力：おはなしタンポポ）

⑤　お掃除タイム

⑥　葉っぱでスタンプ絵はがきづくり

⑦　どんぐりの谷遊び

## ３　事業の特色

当所の主催事業の中でも、保護者の関心が高く応募人数が多いのが、この「かわいい子には旅をさせよう！」である。１・２年生にとって、自然体験をすること以上に、親元を離れて宿泊することに大きな不安があると考えている。そこで、アイスブレイクや寝る前のストーリーテリング、どんぐりの谷遊び等、子どもたちが安心して楽しめるように、活動内容を工夫した。また、家庭生活とのつながりを意識して計画を立てた。子ども用包丁を用いて煮込みうどん炊飯をしたり、布団敷きやお掃除をしたり、葉っぱでスタンプを押した絵はがきを保護者に向けて書いたりした。「できるよ！チャレンジの旅」では、班に分かれて自然の家の敷地内に設けた様々なチャレンジコーナーを巡った。ゴールした際には、子どもたちの力で乗り越えられたことを称え、「できるよ！バッチ」を渡し、焼きマシュマロをみんなで食べて、喜びを分かち合う構成にした。

## ４　成果

退所の際には、２日間でよい人間関係が築けた様子が見られた。子どもたちが他の子どもやボランティアの学生、職員と名残惜しそうにお別れする様子が印象的だった。

事後の保護者アンケートでは、「さっそく食事づくり（うどん）にチャレンジしました。家族でもそのような姿勢を大切にしていきたいと思います。」「つり橋をわたるのがこわかったけど、勇気を出したらできた。と言っていた。」という言葉をいただいた。チャレンジする心や自己有用感が育つ手だすけができたのではないかと考える。また、「妹もぜひ参加させていただきたい。」という言葉から、安心して預けられると感じていただけたことが伺われ、成果の一つだと考える。

令和５年度島根県立少年自然の家主催事業

# 「ジュニア・ウインター・キャンプ」実施報告書

島根県立少年自然の家

## １　趣旨

・仲間と一緒にチャレンジしていくことの大切さを体得する。

・人の温もりや仲間の温かさを感じ取り、仲間と共に成長していこうとする態度を培う。

## ２　事業の概要

（１）期　日　１２月２３日（土）～２４日（日）１泊２日

（２）会　場　島根県立少年自然の家

（３）対　象　小学校５・６年生　16 名

（４）日　程：〈 プログラム構成 〉

| １日目　12 月 23 日（土） | ２日目　12 月 24 日（日） |
|---|---|
| 9:30 ～　受 付<br>10:00　入所オリエンテーション<br>**アイスブレーキング**　etc.<br>12:00　昼食（食堂）<br>13:00　**冬の森に出かけましょう**<br>～森のお話や体験活動～<br>15:00　**ワークショップ**<br>～ チームワークと<br>グループワーク ～<br>16:30　**たき火を囲んでクリームシチュー**（夕食）<br>19:00　**Xmas　キャンドルサービス**<br>20:30　― たき火囲い ―<br>22:00　入浴就寝　**ケビン棟泊** | 6:00　起床<br>6:20　**朝の寒風体操**　（ラジオ体操第１・第２）～　深まる冬の森の中で　～<br>7:00　**冬の森での朝食**<br>～　あっつあつのホットサンド　～<br>9:30　**ウインタークライミング**<br>冬の森を歩きましょう<br>山の頂上を目指しましょう<br>グループ登山から一人登山<br>～ グループワークとソロワーク ～<br>昼食（お弁当）<br>（　13:30～14:30 保護者プログラム参観　）<br>14:00　**ウインターキャンプ　ふりかえり**<br>14:30　解散 |

## ３　事業の特色

進学・進級を迎える小学校５・６年生 16 名を対象に、仲間と共にチャレンジし、個々の成長へと促すキャンプとして位置づけ、プログラムを構成した。出会いの場から始め、冬の森の楽しみ方を講師との体験に学び、ワークショップを通してのグループ編成へ。クリスマスキャンドルのスタンツ企画とグループワークを重ね、ケビン棟での宿泊。

翌日は、早朝体操からソロ区間（一人登山）を設けたグループワーク登山を実施。ふりかえりの場においては、保護者参観の下、気づきや思いを分かち合うプログラムの流れとした。

## ４　成果

湯たんぽは、多くが初めてであり、2.7℃の夜をケビン棟で過ごした。まだ暗い寒風の中での体操、そしてグループワーク登山。冬の厳しさの中にあって、人の温もりや仲間の温かさを感じ取ることも多かったようにも思う。「友達ができるかなって思っていたけど、たくさん友達ができてうれしかったし、思い出がたくさんできました。また、この 16 人に会えたらいいなと思いました。」「車に乗るなり『話したいことがたくさんありすぎる。』と大興奮で話が止まりませんでした。帰ったらすぐゲームを始めるとおもっていましたが、親に言われるまでに自分で荷物を片付け、体を　動かして遊んでいました。」との感想もあり迎えに来られた保護者の皆さんにとっても、我が子の変容を感じ取ることのできた２日間であったように思う。

令和５年度島根県立少年自然の家主催事業

# 「ボランティアスタッフ養成講座」実施報告書

島根県立少年自然の家

## １　趣旨

・　ボランティア活動に興味のある小中学生を対象に、ボランティアのスキルや意欲を高めるとともに、参加者どうしのつながりを深める

・　今年度は、とくに「チャレンジする力」の向上を重点的にねらう

## ２　事業の概要

（１）　開催日　２月１０日（土）～１１日（日）

（２）　対　象　小学校４年～中学校２年生

（かつての主催事業に参加した児童・生徒に案内し、その後追加募集を行った。）

（３）　参加者　１４名（小学生１１名、中学生３名）

（４）　日　程

| １日目(2月10日:土曜日) | ２日目(2月11日:日曜日) |
|---|---|
| 10:00　入所のつどい<br>10:30「今日の出会いを大切に」<br>～語り合える仲間になろう～<br>13:00「チャレンジって何だろう」<br>～自分にできるかな？～<br>13:30「マダガスカル・チャレンジの話を聞こう」<br>15:00「チャレンジに必要なもの」<br>～先輩たちのアドバイスを聞こう～<br>18:00「協力する仲間になろう」<br>～うどん作り～ | 7:00　朝のつどい<br>9:00　「チャレンジのためのマンダラチャートづくり」<br>13:00　思い出のモルック大会<br>14:00　私のチャレンジ発表会<br>15:00　退所のつどい<br> |

## ３　事業の特色

ボランティア活動を行うには、さまざまなスキルが必要となるが、今年度はとくに主体的な行動を促す「チャレンジする力」の醸成に焦点を絞った。大リーグで大活躍している大谷翔平選手が高校生の時に書いた「マンダラチャート」を示すことで、チャレンジするには、さまざまな要素に目を向けることが大切であることを説明した。そして、各々のチャレンジしたいことに向けて自分の「マンダラチャート」を完成させることを目指した。はじめに、当所スタッフが海外協力隊員としてマダガスカルに赴任した経験を話し、チャレンジの意欲を高めた。チャートを一人で完成させることは難しいので、人生の先輩である当所のスタッフやイモームズ（大学生ボランティアスタッフ）、フォローアップ研修で参加された教員のもとをワールドカフェ形式で訪れて話を聞き、ヒントをもらう展開にした。また、仲間からもヒントをもらいやすくするため、参加者同士が触れ合い協力するアクティビティも間に取り入れた。

## ４　成果

参加者は、「マンダラチャート」づくりに苦労していたが、仲間や先輩からヒントをもらい、少しずつ完成させていった。「私のチャレンジ発表会」では、お互いのチャレンジを評価しあう姿が見られた。昨年度同様、ねらいを絞って、プログラムを組んだことは、非常に効果的であった。

令和５年度島根県立少年自然の家主催事業

# 「わくわくどきどきスプリング」実施報告書

島根県立少年自然の家

## １　趣旨

・　自然体験活動、宿泊体験活動による親子の絆づくりの場の提供
・　福祉部局と連携し、県の施策の情報提供の場とする

## ２　事業の概要　【予定】

（１）　開催日　３月９日（土）～１０日（日）
（２）　対　象　島根県内ひとり親家庭の親子　２０組
　　（子どもは安全面を鑑みて年中～小学６年生、中学生）
（３）　連携機関　県青少年家庭課　ひとり親支援グループ
（４）　内容
　①　親子で自然遊び「春をみつけよう」
　②　親子でつくろう「葉っぱでスタンプエコバッグ」
　③　親：ホットひとときおしゃべりタイム
　　子：車いすバスケ体験（中・高学年、中学生）
　　イモームを探せ＆カプラ（年長、低学年）
　④　みんなで野外炊飯「カレーづくり」
　⑤　みんなでつくろう「光の芸術」
　⑥　親子で挑戦「冒険の森」（雨天：室内探検ゲーム）
　⑦　親子でつくろう「森の写真立て」

## ３　事業の特色

県教委による「青少年社会教育施設での野外体験（キャンプ・バーベキュー等）活動機会の充実」の取組を受け、ひとり親家庭の親子対象とした事業で、今年度で２回目となる。県の青少年家庭課ひとり親支援グループに事前の広報や当日の情報提供の協力を得る予定である。

プログラムには、親子で楽しめる体験活動だけではなく、親同士の対話やつながりづくりを目的としたワークショップ「ホットひとときおしゃべりタイム」を設けている。

## ４　成果（Ｒ４年度）

参加者からは、「なかなか親子２人でキャンプ体験ができなかったので、今回の事業にとても感謝している。」「子ども達の自主性やできないことは皆で力を合わせてやろうとする姿勢など成長を感じた。」などの感想がよせられ、事業の目的にせまることができたのではないかと考える。「ホットひとときおしゃべりタイム」では、親同士で楽しみながらコミュニケーションを深めている様子がうかがえた。また、その後の県青少年家庭課からの情報提供には、興味深く耳を傾け、質問をする方もおられ、来年度以降も連携して事業を行っていきたい。より多くの体験を提供したいという思いから、内容を詰め込みすぎたため、疲労感を覚えた参加者もおられた。令和４年度のふりかえりをもとに、令和５年度は内容を吟味し、ゆとりをもったプログラムにしている。

令和５年度島根県立少年自然の家主催事業

# 「わくわく外遊びデー」実施報告書

島根県立少年自然の家

## １　趣旨

どんぐりの谷や冒険の森、体育館等を開放し、自然体験や体力向上の機会を提供するとともに、広く施設の利用促進を図る。

## ２　事業の概要

（１）　開催日　毎月１回（日曜日）日帰りで開催。１０時～１５時３０分

（２）　対　象　誰でも参加可能

（３）　内　容　どんぐりの谷遊び、ソロ炊飯（２回）、冒険の森、体育館活動、月ごとのイベント

（４）　前日から来所し前泊体験も可能とした（５月～１０月はケビン泊を実施）

（５）　周知方法：チラシ配布（前半と後半に分けて２回）。HP や LINE 公式アカウントも活用

（６）　参加人数

| 開催日 | 参加人数 | 前泊人数 | イベント | 参加者の区分 |
|---|---|---|---|---|
| ４月２３日 | 234 | 19 | 山菜てんぷら | ・成　人　47%<br>・小学生　27%<br>・幼　児　25%<br>・中高校生 1%　　１月まで |
| ５月２８日 | 123 | 3 | ミクロの世界 | |
| ６月１９日 | 43 | 0 | 草笛を吹こう | |
| ７月２３日 | 63 | 0 | 水てっぽう | |
| ８月２８日 | 38 | 0 | セミのぬけがらさがし | |
| ９月２４日 | 52 | 0 | うらじろバッタづくり | |
| １０月２９日 | ― オープンデーとして開催 ― | | | 参加者の住所(割合の多いもの)<br>・浜田市　48%<br>・江津市　30%<br>・出雲市　9%<br>・大田市　9%　　１月まで |
| １１月２６日 | 46 | 3 | 自然あそび | |
| １２月１７日 | 10 | 0 | たき火をかこんで① | |
| １月２９日 | 30 | 3 | たき火をかこんで② | |
| ２月２５日 | － | － | たき火をかこんで③（予定） | |
| ３月２４日 | － | － | イモームとかくれんぼ(予定) | |

## ３　事業の特色

主催事業の中では、数少ない毎月開催で自由参加の事業である。どんぐりの谷では、そり遊び、ネット登り、ブランコ、ハンモック、弓矢遊び等の手作り遊具を設置し、スタッフが安全を見守る中で、参加者は思い思いに遊ぶことができる。また、土鍋による炊飯活動のレクチャーを２回実施し、親子で楽しむ機会を提供している。月ごとのイベント、体育館無料開放、冒険の森も楽しむことができる。

## ４　成果

小学校低学年、幼児を中心に、親子で過ごす休日の憩いの場となっている。来場者は、東部出雲市からも１割程度と、全県への広がりを感じる。来場者の多くは、イベントに参加し、リピーターの割合も多く、「何度も来ていますが、初めてターザンロープとブランコができ、成長を感じました。」との声。施設遊具や活動を通し、子どもの成長を感じ、喜びをともにする家族の場ともなっている。

# 「その他の活動」

## １　地域の体験活動支援事業

（１）趣旨

島根の教育資源を生かした体験活動の普及啓発を図る。

（２）今年度の取組

| 日にち | 依頼者 | 支援内容 | 支援した場所 |
|---|---|---|---|
| 7 月 12 日 | 吉賀町教育委員会 | 川活動における安全について現地で指導<br>参加者：公民館職員及び活動協力者<br>２名派遣 | 高津川 |
| 8 月 10 日 | 温泉津小学校 PTA | キャンプファイヤーの企画相談及び安全指導<br>参加者：PTA 役員<br>１名派遣 | 温泉津小学校 |
| 9 月 22 日 | 邑南町教育委員会 | 体験活動における安全管理について指導<br>参加者：公民館職員<br>３名派遣 | 邑南町健康センター元気館 |
| 10 月 20 日 | 邑南町役場<br>医療福祉政策課 | 放課後児童クラブにおけるリスク管理について指導<br>参加者：放課後児童クラブスタッフ<br>１名派遣 | 邑南町役場 |

※　別に、浜田教育事務所社会教育スタッフ会及び益田教育事務所社会教育スタッフ会においても「野外体験活動における安全管理研修」の講師を務めた。

## ２　出前研修

・小学校や児童クラブ、まちづくりセンター、公民館に依頼され、火おこし、創作活動、レクリエーション、テント設営等の研修を計５回行った。

・コロナ禍の終息により、前年度に比べ需要が減少した。

## ３　山陰地区青少年教育指導者研修会（主催　国立三瓶青少年交流の家）

日時：令和５年１１月２０日（月）～１１月２１日（火）

場所：島根県立青少年の家（サンレイク）

内容：自然体験活動とインクルージョン・人間関係づくりの理論と実際・サバニ体験等

## ４　島根県三青少年教育施設連絡協議会　（主催　国立三瓶青少年交流の家）

日時：令和６年１月１５日（月）～１月１６日（火）

場所：国立三瓶青少年交流の家

内容：情報共有・SAP(人間関係づくりプログラム)・自然観察の技能「冬の森探検」等

## ５　広報活動

（１）LINE 登録者数　７８９人（１月末日現在）

（令和３年１０月３日開始、昨年同時期より１４０人増）

（２）山陰中央新報　「生活アップデート」面に主催事業「わくわく外遊びデー」について掲載

（３）石見ケーブルビジョンが主催事業「ジュニア・ウインター・キャンプ」を取材

１２月２７日から事業の様子を放映

（４）三瓶青少年交流の家・青少年の家との合同出展 in イオンモール出雲

日時：２月１７日（土）・２月１８日（日）

内容：創作活動（ぶんぶんゴマ）　チラシ等配布